

		<p>中間貯蔵施設の件も、国からの要請により楢葉町に作らざるを得ない状況かと思います。その際には、町長が考えている町から出た除染廃棄物に限定すべきと考えます。その為には、施設容量を町分と限定して作る事を提案すべきです。</p> <p>また、楢葉町独自での自治体運営は、人口減により困難なので、近隣町村と連携して人口増を図り、町作りを進めていくのが最善の方法かと思います。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul> <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p> <p>双葉郡の町村には、放射線量が高く、すぐには戻ることのできない住民が数多く発生します。</p> <p>そうした地域の町村や住民の要請があれば、他町村被災者の世帯の受け皿づくりや仮役場の機能確保に有効な土地の利用を検討します。また、除染や新たな産業等に関する流入人口等の増加も考えられるので、そうしたニーズの受け皿になることも考慮します。【第二章 2-1)(2)②】</p>
75	70代	<p>解除になり生活できる状態になればすぐ帰りますが、下記の事が心配です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.放射線量と上下水道除染が完全であるか</li> <li>2.ため池、用水路の除染が完全であるか</li> <li>3.道路の整備、鉄道の復活と生活用品の販売店</li> </ol> <p>4.帰町後に仕事がないので、生活保障がなければ生活できません</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。【第三章 2-1)(1)～(2)】</p> <p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン【上下水道・電力・ガス・通信等】）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります。【第三章 2-2)(1)～(3)】</p> <p>また、町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。【第三章 3-3)(1)～(2)】</p> <p>雇用について、安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。【第三章 2-6】</p> <p>特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致をはじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。</p>
76	60代 全般	<p>日々一日と帰町が遅れれば、楢葉町の町民は減ると思われます。今自宅に帰っても何も出来ず見て戻るばかりです。水道も出ず、トイレも使えず、もちろん料理も作れず、生活出来る感じが湧いてきません。一日も早くライフラインの整備が必要と考えます。</p> <p>私達の年代の者は、楢葉町で生活が出来るようになれば、すぐにでも戻るでしょう。車があるから買い物も病院にも思うように出掛けられますが、年配の人達はどうでしょう。移動手段が無い人では、楢葉での生活は無理です。</p> <p>お店、病院等は行政でも補う必要があると思います。現に、広野町民が自分の町で生活していないのは、放射能が怖いのもあると思いますが、今までより便利な街で生活しているからだと思います。</p> <p>これからの街並みを見ると、震災で壊れた家や戻ってこない家族。今まであった家屋が歯っ欠けになるのは間違いないと思いますので、その所の把握や対策も考えなければならないと思います。</p>	<p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン【上下水道・電力・ガス・通信等】）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります。【第三章 2-2)(1)～(3)】</p> <p>楢葉町に町民が戻って生活する中では、利便性と安全・安心の双方の観点から、町内における交通を確保することが必要となります。そのため、コミュニティバスの導入など、町民の日常生活を支える交通手段について、検討を行います。【第三章 2-2)(1)】</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。【第三章 3-3)(1)～(2)】</p> <p>まちの住宅管理については、中核プロジェクトの一つである「まちづくり会社」の取り組みの中で検討を行います。【第二章 3-1)(2)②】</p>
77	50代	ならば福祉のボランティアさん、いっぱいそういう人達の町にしてほしいと思います。	復興計画では、「福祉施策と子育て環境の充実」を主要施策のひとつと位置づけ、その中で、高齢者・障がい者自身もできる範囲で支援側となって役割を担う仕組みの構築を目指しています。【第三章 3-2)(2)②③】
78	60代	楢葉町復興の為に町では、本格的に取り組んでいることわかります。しかし、東電のずさんな管理など毎日のように報道されています。高レベルの放射能（63億8000万ベクレル）汚染水がもれていますなど	原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章 5-1】

		<p>また保管庫ではなく、中間貯蔵これが何十年も月日が経てば責任を持つ人がなく、最終処分になる可能性は十分にあり、いくら安心・安全の町の将来像をと策定作業を進めているが、今の考えとして大変不安です。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul> <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p>
79	70代	<p>お家に早く帰りたい。 上下水道早くしてほしい。 生活をできるようにしてほしい。</p>	<p>町は国の除染が終わる平成 26 年 4 月を目指すに、様々な観点から総合的に帰町判断を行いますが、その帰町判断に向けて、インフラの復旧や生活環境の整備を行います。</p>
80	70代	<p>今回は、原発の問題にて楢葉町として熟考する将来に亘りよき試練の参考になったと感じています。</p> <p>町として原発はよき町の発展には参考になったと感じますが、今回の事故を感じて本当に恐ろしさをつくづく痛感しました。もう二度と恐ろしい目にあわないよう長い長い将来像を考える一番良き時期に遭遇してよかったです。</p> <p>これからは、よくよく長い目で見て（目先にとらわれず）熟考して町の発展と住民の団結と住民一人一人が笑って暮らすことが出来る町になって欲しいと思います。</p>	<p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
81	70代	<p>高齢でひとり暮らしのため、復興計画により生活が震災以前のように戻ることは不可能と思われます。楢葉町で生活する生きがいの一つは、作物や花を育てる事でした。現状の原発についての不安が多く、先が見えません。</p> <p>しかしながら、同町の皆さんと生活、医療などの便利なところで、できれば復興住宅を建てていただき、住むことができればと願っています。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章 5・1】</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。【第三章 3・3(1)～(2)】</p>
82	50代	0.23 μSv/h 以下になるまで帰町するべきだと思います。	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目指すに、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p>
83	60代 栽培植物バイオマス発電 日本政府公認 農作放棄地 森林山林里山が再生します	<p>楢葉町にバイオマス発電所新設 ドーム工場は燃料を保管管理発電所における 植物には、油を含みます。危険です。対策をしてください。</p>	<p>バイオマス発電の燃料については、農業の早期再開策として行う菜の花栽培への作物転換により確保します。こうしたバイオマス燃料を用いながら、バイオマス発電などの導入を検討し、採算性など事業性を模索していきます。</p> <p>なお、農地を活用したバイオマス燃料の製造について、製造ビジネスの可能性を検討するほか、バイオマス燃料の製造工場の誘致なども検討し、新たな地域産業の創出と雇用創出に取り組みます。【第三章 4・3(1)①、(2)②、(2)④】</p>
84	70代 楢葉町中間貯蔵施設受け入れと町民帰還について	<p>波倉地区に中間貯蔵施設が来ると聞きますが、井出浜から井出八石、立石地区以北の住民は、帰還する人は皆無になるのではと思います。中間貯蔵施設受入と町民帰還は矛盾すると思います。30代40代以下の町民は町の南部の地区でも帰還する人は無いと思う。</p> <p>広野町川内村でも手本になると思う。若い人がいなければ、町の人にも減少が続くと思う。町の方でもそのことを頭において十年先二十年先を考えてもらいたい。双葉郡に特区をつくって雇用につながる何かを造るとか。双葉郡町民を避難させたまま、安全を確保しながら、第2原発稼働させるとか。その場合、双葉郡町民の生活を保障するとか、町民のいない過疎の町にならないよう願います。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul> <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p> <p>新たな街並み形成ゾーンにおいて、新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ることができない区域から長期避難される方々の受け皿も整備していきます。【第二章 2・2(1)②】</p>

85	70代	<p>楢葉には、1日も早く帰りたい。でも何も出来ていない所には帰れない。もう2年をすぎてしまったが、除染も出来ずそんな所には帰れない。あの美しい楢葉はどうなってしまったんだろう、美しい山、美しい川それぞれたくさんあると思います。1日も早く除染やインフラ、又汽車、病院とか出来るように考えてもらいたい。私達もなれない土地に来て2年以上が過ぎた。早く元気なうち、自分の足で歩けるうちに帰りたいです。もう年もとっているので、何でもいいですから、早く帰れるように町をつくってもらいたい。それだけです。町長も若いし出来ると思います。町民の事を考えて下さい。監獄に入るのと同じです。夕方になると、色々と考えてきて寝ることも出来ないです。早く帰れるようにして下さる事をお願いします。私達も楢葉に帰るまで頑張ります。体は段々と弱ってきます。帰れる日が来ることを心より待っています。お願ひいたします。</p>	<p>町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行うほか【第三章 2-3】、帰町に向けて帰町計画を策定します。</p>
86	60代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線量に不安です。</li>   <li>・医療機関が確保されること。</li> <li>・町内に商店など再開されること。</li> <li>・コンビニエンスストア再開されること。</li> </ul>	<p>放射線量については、町は詳細なモニタリングを継続的に実施し、結果はわかりやすく公表するほか、放射線の測定体制を整備し、いつでも誰でも線量測定ができるようにします。【第三章 2-4】</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。【第三章 3-3】(1)～(2)]</p>
87	50代	<p>我々日本人は、生来まじめな気質を持っています。そのまじめな気質がどんな社会状況が起こっているのもかかわらず、それをのりこえてきたのです。国内の内乱も外国との戦争も、日々の生活からつちかわれた共同的意識に規制されてきました。しかし、外国から見れば、猿まね民族で、日本人は、大衆は、自分の意見を持っていないとの批判がなされてきました。また、日本人には合理性がない、また、哲学を持っていないとも言われてきました。私もそう思います。日本を歴史的、また社会的な重層的な文化構造が、現代日本人が世界の中でもまれな特異な民族として注目されました。古代から天皇制から武士道、経済大国にのしあがり、古くから人民の死さえも、当然の日本人の責務として常識になった文化です。しかし、現代日本は、あらゆる価値の境位に経済を定立したのです。それからその生活とお金の価値とを、お金の方を日本人は選んだのです。またエネルギー問題は、日本人を最大に苦しめています。日本人の最大の問題は、自然の、地震の災害は日本を滅亡へとおとしいれようとしています。現代日本はそれに対してどうしようもないのです。</p>	—
88	70代	<p>楢葉町復興計画は(第二次)(案)実現に向かって頑張って下さい。家が汚損劣化住める状況でない。町に戻りたいが、このような状態では戻りたくない。</p> <p>家の北側の土留ブロック積みが家にかかって崩れているので、家解体しなくては直すこと出来ない家は大半壊となっている。</p>	<p>住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。【第三章 2-3】(2)①]</p> <p>また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。【第三章 2-3】(2)④]</p>
89	70代	<p>総合的な意見で申し訳ありませんが、最高の復興計画が第二次(案)として提示されています。非常に立派なものです。行政機関としては、大変ですが、町民の安全・安心と幸福のため、実施していただきたいと思います。</p>	<p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
90	70代	<p>避難のため、主人が具合悪いのです。これから役場どのように持っていくんですか、おしえてください。</p>	<p>町は国の除染が終わる平成26年4月を目指して、様々な観点から総合的に帰町判断を行いますが、その帰町判断に向けて、インフラの復旧や生活環境の整備を行います。</p>
91	60代	<p>※楢葉町復興計画(第二次)(案)について</p> <p>今回第二次復興計画案を拝見すると、大変すばらしい内容で、早くも平成27年度には地元に帰還されると想像します。</p> <p>でも、東電第一の連続のトラブルで最近はもっと遠くへ避難し、一生他県等で確保するかを家族で思案中です。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章 5-1】</p>

		<p>また、町長の発言を新聞で拝見すると中間貯蔵施設を言葉で町民をだまし保管庫といっている、中間貯蔵施設と保管庫はどこがどのように違うのか【規模、構造、埋蔵期間】を町民へわかりやすく説明せよ。現在あなたの考えには賛同できません、除染を先行し住み除染を先行し住みよい町にしようと他町村の作業員の努力もだいなしです。我々が今希望していることは、汚染物のない檜葉町です、今後は汚染された廃棄物とは一生暮らしていくたくない。地域住民の考えを無視して中間貯蔵施設の許可については中学生以上の住民投票を行なうべきだ。</p> <p>中間貯蔵施設が出来る場合は漁業権の補償のように町民一家族が約5,000万円の補償で自由に他市町村で暮らせるように国へ交渉すること。檜葉町の町長の考え方では大半の町民は納得しない。</p> <p>我々みたいに仮設で暮らし苦しみを分かち合い綺麗な檜葉町で生活するべきで、明日からは家族と一緒に仮設住宅で生活し苦しみを分かち合い、中間保管庫は檜葉町に絶対作らないことを宣言して下さい。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul> <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行なうよう求めていきます。</p> <p>さらに、このような町としての考え方は、今後とも、町政懇談会の場などを活用して、町民の皆様にわかりやすくご説明して参ります。</p>
92	70代	<p>はじめに</p> <p>各調査を始め、復興施策（第2案）の綿密な作成、本当にご苦労様です。</p> <p>只、再三にわたる「汚染水の漏れ」後手に回る対策の遅れ、東電、政府の怠慢な姿勢に町民は憤りさえ感じるこの頃だと思います。「住民意向調査」の帰還意向でも、ほぼ9割近く諦めムードの傾向にあるので、出来るだけ早く、緊急に取り組む施策9頁の1と2の取り組みを願いたい。</p> <p>&lt;要望事項として&gt;</p> <p>①一応除染した部落のインフラ（下水道）整備を出来るだけ早くすすめてほしい。浄化装置など問題もあるが出来れば簡易装置など検討して欲しい。</p> <p>②早めに1泊ないし2泊位の宿泊許可制を願っている（郷愁の念薄れぬため）</p>	<p>復興計画（第二次）に記載した施策・取組項目は、「緊急に取り組む施策」はもちろんのこと、それ以外の施策等についても、必要なものはすでに取り組みを進めています。今後、より一層これを推進し、復興に向けて取り組んでいきます</p> <p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行なってまいります。[第三章2-2)(1)～(3)]</p> <p>宿泊の許可については、インフラ整備や除染後にしっかりとモニタリングを行い、評価を行なった上で判断を行ないます。</p>
93	60代	<p>内的と外的に考えること。</p> <p>①双葉郡の他町の人が住みたいと思える町をつくる</p> <p>その為には観光地を魅力あるものにする。木戸ダム（紅葉、遊歩道）、天神岬（温泉キャンプ）、Jヴィレッジ、それらを大きく宣伝し、他県の人達が少しでも興味をもつことが大事だと思います。</p> <p>②子供の保育園と幼稚園を無料にする</p> <p>町のことを興すには、他町村県外の人が行きたくなる場所であること。</p>	<p>天神岬や木戸ダム、木戸川などは檜葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来的世代に伝えます。[第三章2-2)(3)②]</p> <p>子育て支援策の一環として、帰町時の就園費用補助等についても、今後検討していきます。[第三章1-1)(3)③]</p>
94	70代	<p>木戸駅・竜田駅の橋上化</p> <p>木戸駅付近の整備を事故前に行なっていたが、今回の事故によって中途になってしまった。又、竜田駅の場合は将来駅海側に道路が計画されていると聞いています。</p> <p>これらの計画を考え復興の「シンボル」として両駅の橋上化をしてはどうだろうか。</p> <p>大野、泉、磯原駅が橋上化になって駅前及び付近が大変活性化されました。</p>	<p>木戸駅・竜田駅については、周辺整備も含めて重要な課題であり、橋上化も含めて、JR東日本（株）、国を始めとする関係者と協議していきます。</p>
95	60代	<p>今の農業の現状</p> <p>復興を目指す新たな土地利用</p> <p>農業は高齢化、後継者不足により深刻な問題に直面しています。原発事故の収束が長ければ町の復興が遅れ、町民は大幅に減少し人材も流出します。</p> <p>又、TPP参加によるコメの関税撤廃で、安価な外国米が米市場を独占する事により、国内コメ農家の価格維持、保護は難しくなります。現在の小規模農家ではコメの生産コストは1キロ当たり平均200～250円、外国の生産コストに比較して2倍もかかり、個人での農業再開には限界があります。</p> <p>これからの農業用地の利活用</p> <p>これを打開する為に国に農業特区を申請し小規模農地、耕作放棄地の土地利用の緩和、土地収用手続きの効率化することで、農地の集約化を促進し、大規模な農業法人を設立します。</p> <p>農産物の生産、加工、販売を一貫して町が支援、指導して、農家のやる気を引き出し、担い手を育成して、農業法人で、働くサラリーマン農民の確立を目指しては如何でしょうか。</p>	<p>農地については、廃業による耕作放棄地や津波被災地の農地の集約化を行うとともに、新しい農業に取り組む中で農業復興組合を組織化し、農業者の意向を尊重しながら計画的に進めていくこととします。[第三章4-3)(3)]</p>
96	60代	<p>インフラの復旧、生活関連や商業、医療の復旧などさまざまな課題が山積し、これからの檜葉町がどの様に変化していくのか</p> <p>一日も早い復興を願っております。</p>	<p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>

97	70代	除染適切に進め 帰還環境整えて	楢葉町に帰っても若い人が帰らないと老人は自動車運転出来ない人は、スーパー、食料品のお店、総合病院がなくては・・楢葉町に帰る事はできない。	町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)~(2)]
98	60代	復興のための施 策	この施策は賛成です。 楢葉町が好き 家に帰りたくないと思っている人はいないでしょう。しかし毎日のように報道されている東電の事故をみていると我が故郷は遠くにあります。私はまもなく 70 才に突入するのでガマンもできますが 若い人達の未来は安心安全な町になるまでは帰町は無理なのでは?	原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1]
99	80代	楢葉町は子どもたち、孫達の帰れる町にしたい  楢葉北小学校正門左に、二宮金次郎の銅像がある。しかし、それを知らない町民も少なくない。	1. 1Fの1号～4号の水もれ問題で、嫁と孫の京都に避難中が急にいわきもあぶないからという（考へる事と）なりました。 2. 美しいならば町が、遠くの生活になれてしまうと子供達は忘れてしまいませう。それがおそろしいのです。 3. ならば町の四季を思ひ浮かべて (ひびけ大地に) 私作詞のものを歌ふことに依って、思ひ浮かべる事ができます。  1. 二宮尊徳 (たかのり) 金次郎はは (幼少の名) 生誕 226 年に当る今年、現在の神奈川県小田原市生 草履、草帰るの時代にもどる事を望んではいない あまりにも豊富な世の中に生きているので、少し切りつめて行きませう。	原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1]  今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。
100	70代	広域連携につい て	各町村においてそれぞれ復興計画を策定していると思います。各町村の計画がその復興の核となることは言うまでもないが 住民意向調査結果に見られる通り帰還宣言後は町外への転出者が増加し相当数の人口減少が予想されます。 人口減少は楢葉町だけではなく双葉郡の各町村でも避けられないことでしょう。 従って、双葉地方の復興を推進するに当たっては広域連携が欠かせないと考えます。 復興への取り組みを支える仕組みの中に関係行政機関として双葉郡復興会議が位置づけされています。 是非とも双葉郡復興会議、各町村に働きかけて広域視点で考慮した方が波及効果も含めて有効なものを洗い出して推進して頂きたいと思います。 例) 1. 医療系、放射線、再生可能エネに関する研究機関、大学キャンパスの誘致など 2. 大熊、双葉、浪江など期間困難区域に指定された住民の災害復興住宅等による受け入れ。(できるだけ古里に近いところに住みたいという希望を持っている方も少なくないと思います。分散型仮の町も含めて) 3. 中間貯蔵施設（保管庫）の早期実現（行程表通りの推進：遅れさせない） 4. 大型工業団地の誘致 小規模でも良いがハブ工場となりうる産業、会社の誘致 ハブとなる工場とサプライヤー（各町村の既設の工業団地） *竜田駅のパーク&ライド構想は実現のための重要な一つの施策であると思います。	復興の推進に向けて、双葉郡内の各町村と連携をとり、県、国も参画する「双葉郡復興会議」の設置を呼びかけ、これを推進していきます。[第二章 3-1)(3)] ご指摘の各項目をはじめ、各種復興施策については、このような場で各町村との連携をとりながら推進していきます。
	農業用地の利活 用 まちづくり会社	高齢化している農業従事者、原風景保全、地下水保全等、水田が果たしている役割を考えるとその維持は重要であると考えます。 産業特別区として、株式会社参入が可能な規制の排除 (楢葉町住民による公社的な会社による営農等共助も含めて) 農業の6次化 楢葉ブランド商品の開発により道の駅、Jヴィレッジ等への加工、出店等 休耕田の集約などを可能にする農地法の規制改革 (スマートコミュニティ等)	農地については、廃業による耕作放棄地や津波被災地の農地の集約化を行うとともに、新しい農業に取り組む中で農業復興組合を組織化し、農業者の意向を尊重しながら計画的に進めていくこととします。[第三章 4-3)(3)] いただいたご意見は、今後、こうした検討を具体的に進めていく際の参考とさせていただきます。	
	コンパクトタウン	楢葉町は海を望む山間地として、田畠の近くに小集落があるので諸施設を集約、近接は有効であると考えます。只前述の通り、小集落が散在していることから交通手段を含めて、楢葉町に合ったコンパクトタウンを実現して下さい。 散在している小集落が散在した数戸ということになることは避けたいものです。	いただいたご意見は、今後、コンパクトタウンの検討を具体的に進めていく際に、参考とさせていただきます。	

101	40代	(案) 全般について	<p>いつもお世話様になっております。役場職員の方々には、過酷な状況の中での業務遂行、大変お疲れ様です。私の意見は、ズバリ少なくともあと10年以上は町民の帰還は無理ではないか?もしくはもう帰れないという正直な気持ちです。特に若い世代と子供達を町に帰還させることは止めた方が良いと思います。町の復興計画と原発の廃炉作業を含む収束作業の計画は、必ずしも一致しないと考えています。つい先日の停電や汚染水漏れの問題は、原発が爆発事故により非常に致命的なダメージを負ったことを証明しています。高齢者は「こんな仮設住宅で死にたくない!自宅に帰りたい!」と訴えますが、実際に高齢者だけが帰還しても町は成り立ちません。若い世代と子供達は避難先に順応していきます。楢葉町の存続も大切ですが、イコール帰還ではないと思います。人が暮らすという環境は、医療・学校・商店・仕事・地域のまとまり、これらがすべて整って初めて人々の暮らしが再生するのではないでしょか?中途半端な帰還は、ますますの住民の分断を招くのではないでしょか?まずは、急がずに、本当に安全性が確認されるまでは「帰還」には反対です。</p> <p>昨日(4/16)、楢葉町自宅から富岡町夜ノ森まで立入りしてきました。涙が出ました。避難前の豊かな楢葉町ではありませんでした。自宅の近くの天神岬公園からリリー園の脇には、以前よりも、さらにたくさんの作業員用のプレハブが建設されていました。南工業団地の元の職場の****にも行ってきました。工場前の道路の復旧作業中でしたが、会社内の敷地は2011.3.11のままの風景でした。ここでも涙が出ました。怒りも込み上げてきました。夜ノ森の桜並木にも行きました。毎年、ここでよさこいを踊っていました。やりきれない気持ちでいっぱいになりました。水道・電気・道路が着々と復旧作業していますが、除染の進行と共に限りなくおびただしい量の放射性廃棄物が積み上げられています。結局は楢葉町に置くようにならざるを得ません。結婚した長男には、もし子供が生まれても楢葉町には連れて行かない、と言わされました。昨日の楢葉町は、「原発事故の収束作業・除染の前線基地」としか思えませんでした。元の町民ではなくて、作業員の居住地となっています。</p> <p>私だけがこんな風に感じているのでしょうか?役場の若い職員の方々やお孫さんのいる高齢者の方々は、どのように感じていますか?即答できませんよね。私もどうしたら良いのか答えが見つかりません。でも、安易な帰還宣言だけは絶対にしないで下さい。これから新生楢葉町を考えるならばなおさらです。前代未聞の原発事故の弊害は、長い長い期間の中長期的な計画さえもとん挫しかねません。とは言え、避難生活3年目。もう町民も限界が来ていますね。楢葉町が楢葉町として町民のことを最優先した町長の本当の英断を切望します。</p>	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目指に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
102	30代	商業施設の充実	<p>若い世代の帰町を促すためには充実した商業施設が重要だと思っている。</p> <p>魅力ある大手スーパーや本屋、衣料品店等を誘致し、町の商工会との融合を図った集合ショッピングセンターの建設等を計画してほしい。</p>	<p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導します。[第三章3-3)(1)~(2)]</p>
103	40代		<p>1Fは、まだ放射性物質を上空だけでも東電発表で、毎日2億4千万Bgも放出中で、いつも「汚染水が漏れた」、「ポンプが停止した」、「電源が止まった」と深刻な事故続きです。</p> <p>未だ非常に危険な状況の1Fの、わずか20数Km以内の場所に、早急に戻って生活しようとする考えが理解出来ません。生命の安全をないがしろにして、誰の得になるのですか?</p> <p>ですので、まだ楢葉町に帰町しての復興については考えられません。少なくとも、楢葉町に帰町しない方向での復興を要望します。</p>	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目指に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
104	60代		<p>皆様方の英知を集め、後世に誇れる方策を願います。</p> <p>又、放射線への不安解消について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 線量の低減(現状の)シナリオ</li> <li>(2) 福1から現在出ている線量と今後廃炉の向けての放出量の明確化を時系列的なシナリオを望みます。</li> </ul>	<p>放射線量については、町は詳細なモニタリングを継続的に実施し、結果はわかりやすく公表することとしています。[第三章2-4)]</p> <p>いただいたご意見は、今後、こうした情報公開の際の参考とさせていただきます。</p>
105	70代	心が灯る故郷 捨て切れない故郷	半径何キロに対して国からの地方交付税 新たに考案 價値あるイメージダウン	今後とも、原子力災害からの復興・再生を目的とする福島復興再生特別措置法や、これに基づく復興交付金などの活用により、ふるさと楢葉の復興を目指します。

	除染による処理対策と保管中間場	楢葉は以外の市町村は楢葉町民として又個人としても中間場の保管は永久である 8町村にて団結され国が最終処分 県からも国へ	放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。 ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。
	政府から要請が3町に解答件は	町から出る一時貯蔵の仮設期間は 中間貯蔵保管の受け入れたとしての保管期間は？	国が示す計画では、仮置き場での保管期間は 3 年程度とされ、また中間貯蔵施設では施設運用から 30 年以内に最終処分施設への搬出を行うものとされています。
	政府解答の除染について	町から要請は続く限り何年間	町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で平成 26 年度以降の除染に関する計画を策定し、国の除染計画へ反映するよう要請していきます。[第三章 2-1](1)①]
	町の空地と空家の件	この物件の活用方法について	新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ることができない区域から長期避難される方々の住環境整備のため、まちづくり会社を通じた空き家活用なども検討していきます。[第三章 4-3](1)②]
	復興に対して	事業等の順位の件	復興計画の各事業については、復興推進委員会において、適宜、その見直しや進捗管理を行います。[第二章 3-3]
	復興推進課一同様へひと言	新たな町づくりの考案ご苦労様です 課と課との協力性を有効に	復興推進のため、町役場内に各課職員からなる「復興戦略プロジェクトチーム」を設置し、課の枠組みを超えて機動的・柔軟に対応できる体制を構築しています。[第二章 3-1](1)]
106	30代 観光の再生と健康・福祉の集積	具体的に木戸川の除染はどうするのか。川の水は川内の方から流れてくる為、除染が難しいのでは？それ次第で水を飲むことも、鮭・鮎を食べることも出来ないのではないか？	上水道・水資源については、現在双葉水道企業団が週 3 回の検査を行っており、検出下限値以下であることを確認しています。また木戸川の河床などの除染についても、国に要請していきます。
	Jヴィレッジの再生…	震災からずっと使用している J ヴィレッジを観光の対象として再生出来るのか。除染が難しいのでは。1F からの汚染がかなり持込まれていると思います。医療機関を設置と書いてあるが、富岡の今村とか大熊の大野病院クラスの病院がないと難しいのでは？歯医者とか耳鼻科とかは？具体化がない。	J ヴィレッジについては、町の復興のシンボルとして再生していきます。[第三章 4-3](1)①] また地域医療の再生のため、地元クリニックなどの 1 次医療を再構築するとともに、2 次医療施設の誘致に取り組みます。[第二章 3-1](2)①]
	5ページ 既存企業の再生と…	工業団地の再開とあるがどの位の企業が再開するのか。また雇用の見込みあるのか。可能性は。工業団地と海上の風力発電だが、風力発電の雇用もよくわからない？	南工業団地については、企業の帰還促進とともに、帰還を断念する企業の土地の有効活用を図ります。[第三章 2-6](1)①] 雇用については、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致を中心とする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。
	6ページ 物販、サービス	ホームセンタクラスのお店がないと富岡、大熊にいけない今、帰る人はいないと思う。 今後、楢葉町に何か大きな魅力的な物がないと少なくとも若者は戻らないと思う。生活が不便な為。	町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、新たな街並みを形成し、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導していきます。[第二章 2-2](1)②、第三章 3-3](1)]
107	70代	一日も早く帰りたい気持でいっぱいですが、家が大変こわれてしまい被害調査では一部損壊の判定で通知がありました。 全部直して入ると大変なお金が必要です。 子供達も一緒に住んでいない為、年より 2 人で何も出来ません。本当に困っています。 もう一度家の見直しをしてほしいです。	住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3] (2)①] また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3] (2)④]
108	70代	①産業技術集積ゾーンの欄で、原子力発電所立地町としての関連技術……と記されているが、1月5日の県民意識調査の結果では、75.4%が原発は全て廃炉にすべきとなっているのに、この文言は原発再稼働推進のように読み取れるので、如何なものか？	福島県は、福島第一・第二原子力発電所 10 基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。

109	70代 健康のまち楢葉	福祉や老人ホーム、病院などの医療に対する具体的な説明がほしい。	天神岬周辺にある福祉・介護施設などと連携し、健康・福祉の集積エリアとして、関連サービス産業を育成・充実していきます。[第二章 2-2(3)②] また地域医療の再生のため、地元クリニックなどの1次医療を再構築するとともに、2次医療施設の誘致に取り組みます。[第二章 3-1(2)①]
		木戸ダム等の除染はどう考えるのか。底に汚染物が高濃度にたまると考えられる為、絶対に除染は必要になるはず。飲料水に対する不安もある。今の水道管には汚染が無くともこれから流すことによる汚染が心配である。	木戸ダムの除染については、すでに国に対して要望しており、今後も引き続き要請していきます。
		商業はどう再生、新規になされるのか。	町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、新たな街並みを形成し、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導していきます。[第二章 2-2)(1)②、第三章 3-3)(1)]
110	50代	私は今、福島からはほど遠い**県に避難しております。全国紙をとっているものなかなか地元の情報が入らず、時々、郵送されてくる臨時の新聞、広報等で得ている状況です。そんな中少しづつ少しづつ復興に向けて歩み出している中、報道で中間貯蔵施設のボーリング調査を受け入れたという事がありました。議会でも受け入れを拒否し、町長も反対の意見を言っていたにもかかわらず、この様な状況であれば、話が増々進み、帰町しようとしていた私達でさえ将来が不安で帰ろうとは思わなくなります。まず、これらの不安がなくなつてからではないと、復興に対する前向きな意向もなくなってしまうのではないかとおもいます。	放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。</li><li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li></ul> また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行なうよう求めています。
111	70代 第二章の復興の進め方	楢葉町に、平成 26 年春には帰町可能とされて書いて有りますが本当に帰町出来るのでしょうか？もし、楢葉町*****の家には住めないと想いますので町営住宅か？中満天神岬に新たに作る住宅を町から借りて住み、生活していくしかないと考えて居ります。その時には、宜しくお願ひ致します。  私は職業は、大工なので、楢葉町に帰町するようになったなら、仕事をしたいと思っております。震災と原子力災害で、**県に避難して来る前に、楢葉町で一緒に仕事をしていた仲間も必ず帰町すると思いますので、また仕事を一緒にしたいと思っております。 **(**) だけど、大工なのですが、大工仕事はもう年齢なのでやらないそうなのです。**は楢葉には帰らないような話なのです。私は、故郷楢葉町に戻りたいので、復興推進課の皆さんや（松本幸英）町長様宜しくお願ひ致します。	町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目指して、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。  住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3) (2)①] また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3) (2)④]
	①インフラ復旧の上下水道の復旧に力を注いで下さい。	町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成 26 年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2)(1)～(3)]	
	②健康の確保	放射能の含まれていない、食べても安心な食品等を確保して下さい。	町では、食品等の放射線測定体制を構築し、いつでも誰でも線量測定ができるようにします。[第三章 2-4)(2)]
		避難者、生活の支援も宜しくお願ひ致します。	長引く避難生活への対応として、心身の健康管理、子育て支援、生計維持・確保の支援など、さまざまな支援策を今後も継続していきます。[第三章 1-1)]

112	今後の家族の住まいに対するお願い。	<p>現在の原子力発電所の安全性や、放射線量に対する不安ばかりの中、どうしても復興計画だけが一人歩きしている様に思えてなりません。私達家族も、いわき、茨城と4ヶ所に離れて暮らし、生活の基盤が違てしまいました。今後家族がまた一緒に暮らすには、＊才と＊才になる孫の健康を第一に考え、放射能のできるだけ低い場所での生活を考えています。</p> <p>家の再建も考え方したものの土地の高騰でとても資金繰りが出来無いのが現状です。</p> <p>今後、行政にお願いしたいのは、もし、いわき市に災害公営住宅等が整備されればそこへ家族と共に住みたいと思っています。仮設住宅の生活では、体調も崩し、精神的にも限界が来ています。</p> <p>家族がまた支え合って生活し、少しでも気持ちに余裕が出来、笑顔を取り戻す事が出来る様、ぜひ早急にお願いしたいと思っています！！</p>	<p>現状では「避難指示解除準備区域」となっているため避難が長期化していること、今後、避難指示が見直されてもさまざまな事情ですぐに帰町できない町民がいる可能性があることから、町外における長期避難者への住環境の確保について、国や県へ要請していきます。[第三章 2-3)(3)②]</p>
113	70代 第1章 2 復興計画の目標 と理念 基本理念	<p>(1) 安全安心な生活の理念 (2) 次世代への継承</p> <p>上記の二点は中間貯蔵施設（庫）を設置された時点で不可能になる。</p> <p>町としての形態は成り立つが住民の安全安心はない。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul>
114	50代 復興を目指す新たな土地利用	<p>土地利用計画を見ると、北地区に、人口や色々な施設が片寄っているような気がします。</p> <p>北地区は、第二原発に近く、中間貯蔵施設（保管庫）がつくられるかもしれない、なるべく南地区に人口が増えるようにした方が良いと思います。</p> <p>土地利用計画の図面は、中間貯蔵施設（保管庫）有りきの図面なんですか。</p> <p>復興計画は中間貯蔵施設、又は中間保管庫を作るか作らないのかで、人口の流動が決まってくると思うので、はっきりしてから復興計画を作成した方が良いと思います。</p>	<p>土地利用計画に示す「原子力防災ゾーン」は、万が一の原子力災害時に、その対応のために必要な人員・資機材・車両などを集結させるスペースを確保するものです。</p>
115	住民意向調査について  帰町開始の時期について	<p>この調査データをみると、底辺に漂う住民の無念さが窺える。帰りたくても帰りたいと素直に書けない無念さだ、福島県も復興町も、これを感じているか疑問だ、残念で仕方無い。真意の意思表示、本音なのかと考えさせられる。</p> <p>計画では、26年の春とみているようだが、現在の放射線量、除染の進行状況、東京電力の現況と対応が心配だ、水洩事件、まだまだ、深刻になる傾向にある。隠蔽が常にあり、全く彼等の情報開示は、信憑性に乏しい。全て後出しで、配電盤事件についても、ネズミのせいにしてしまった。闇の中の話、噴飯なのだ。取り敢えず、理由をつけて発表した時間稼ぎだった。</p> <p>大量の放射性汚染水を垂れ流して、世界中の海を汚染させている。水は形があり測定出来るにしても、放射能は眼に見えないものであるから、どの程度のレベルなのか、現在漏れていないか、事実はどこにあるか、判然としない、想像も出来ない。</p> <p>住民には、自分で計測する以外に方法が無いのか。新聞に発表される数値は自分で帰宅して計測したものと、相違があるように感じられる、出来るだけ低く押さえ発表しているのかと勘ぐりたくなる。</p> <p>過去の水俣病や、その他の公害問題について、住民がいくら騒いでも多大な犠牲者を出しても、国は放ったらかしにしていた歴史がある。</p> <p>完璧な除染と確認出来る補償の確約、23.3.11.の状態に戻り得る環境の整備が必要だ。</p> <p>損害賠償の補償、被害者ベースではなく、加害者ベースになっている、楢葉町当局も、どの程度の補償が進んでいるか、意見を吸い上げて交渉にアドバイスして頂きたい。</p> <p>決して急がない、急げば先方の条件を押しつけられる。</p>	<p>-</p> <p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目途に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策を町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1]</p> <p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む[第三章 1-4)(3)②]ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章 2-3)(2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章 1-3)(1)④]</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p>

	インフラの整備	<p>徐々に進行していることは確認している、帰町、帰郷と言っても、住民が残っている人の話と、津波で失った人の話は次元が違う、津波被害の人達の話を優先すべきで、早く意向を汲み上げて希望に添うように対応すべきだと思います。</p> <p>時間が、かかる程、心は荒みます、優先してインフラ以上に大切だと思います。自宅が喪失して、帰る土地、家がない人の心中は、寂しいと思います。</p>	<p>津波被災地区については、「津波防災地域作り総合推進計画」を策定し、防災集団移転促進事業を活用しながら、被災された住宅の再建に取り組んでいきます。[第三章 5・2)(2)①]</p>
	住宅街の再建について	<p>地形的に檜葉町は全体的に平坦ではない、平坦地は農地が多い、もとより、農地には、農地法の縛りがあり、平坦地を宅地にすれば農地が減少してしまうし、農業経営者は老齢化の傾向にあり、農地放棄、放置も散見されます。ただ、減少傾向にあるにせよ、固定観念で土地への執着もある、上手に集約する必要がある。</p> <p>東電事故の前に、友人達に「檜葉町はどうですか故郷は、住み心地は?」と、よく聞かれた。私の返事は、「春夏秋冬、変化あり、海、山に恵まれて暑さも寒さも程よく、良いところですよ」と、言ってきた、ただ、「懸念は原発だと」その懸念が、現実となって心が傷む。</p> <p>土地は集約した方がインフラにも都合が良いし、まとまれば、効果的です。</p> <p>だが、地形上、地権者も相続等で問題が在るやに聞いた。特別措置法でも作り、(私権の侵害)対応が望まれる。また、候補地以外でも、戦時中に耕作し、現在は雑種地に、あるいは山、荒れ地になっている土地も多数あります。散在している土地を集約して、整備すると宅地や農地として利用すれば、団地を造る可能性はあると考えます。</p> <p>6号国道周辺も良いが、高速パーキングエリアが出来るならば、松岡、立石、上繁岡、大谷等、後背地も開発出来るのではないか?</p> <p>一方、秘境としての乙次郎、三六線を利用してのダム観光や、考慮する。</p> <p>また、一案として、浪江の他の地区に避難して戻れない、相馬焼きの窯元を招聘して焼き物の里とする事も可能だと思います。友人が二本松辺りに避難している。</p> <p>檜葉町に帰還しない人達、東電の補償を早く実行させて頂き、その跡地を再利用する事も考えるべきです。更に、近隣の大熊、双葉、浪江の希望者も受け入れ可能な町にすれば良いかと、やがては、必ず出てくる広域合併も視野に入れるべき、人口を増やすこと、そして、医療体制、商業地帯、工業地帯と連帶する農業を経営する仕組みの創設が当然の課題になる、その為には東電の資産の補償請求を早く進展させ確定させて、買収、譲渡を推進させる。</p> <p>一方、檜葉町でも補償請求に是非、関与して進展させて頂きたい。安心と職場が必要です。</p>	<p>農地については、廃業による耕作放棄地や津波被災地の農地の集約化を行うとともに、新しい農業に取り組む中で農業復興組合を組織化し、農業者の意向を尊重しながら計画的に進めていくこととします。[第三章 4・3)(3)]</p> <p>新たな街並み形成ゾーンにおいて、町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導します。[第三章 3・3)(1)~(2)]</p> <p>また、新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ることができない区域から長期避難される方々の受け皿も整備していきます。[第二章 2・2)(1)②]</p> <p>いただいたご意見は、今後これらについて具体的に検討する際に、参考とさせていただきます。</p>
	観光について	<p>上記でも触れたが、檜葉町には、他の町村にないものがたくさんある。</p> <p>J ヴィレッジは、我々の年代としては、馴染みが薄いが、スポーツ、医療機関、温泉、海水浴場、その周辺から沖合に風力発電所を造り、橋を架けて、その地区で魚釣りをする釣り場、と思ったが、汚染水の問題もあり、絵に描いた、架け橋にか?鮭釣りと、合わせれば面白いと思った。</p> <p>木戸川は鮭と、鮎の宝庫だ、鮭の孵化、加工品の販売、鮭釣りと話題は豊富だ。井出川も、私たちが子供の頃、カチカ、スナメグリ、ウナギ、エビ、ウグイ、モクズガニ、八目ウナギ等、何でもいた、ガラス箱とヤスを持って、終日川に遊んだものだが、子供たちが川で遊べる環境はない。</p> <p>今は、機能本意で、コンクリートで固めた川はや堀は荒れ放題、岩盤が露出して砂も石も過去の乱掘と手入れ不足で流出、虫の居場所もない、川を堰止めて川床に石をぶち込み底上げして魚道を造る、立石の奥まで鮭の稚魚が上れるようにする、ヤマメ、イワナ、マスなども増えるであろう、魚たちは海より遡上するので、条件を完備してやれば、子供が安心して遊べる水場を造るのです。</p> <p>子供の時、水に溺れて水泳を覚えた。幼年期の体験は貴重です。天然資源の再利用再創設が必要です。</p> <p>昭和 19 年に私は、東京から田舎、竜田村に疎開で、一人で戻った。ある時、爺さんに井出川に連れて行かれた、川には木の板の橋が架かり、川底には、どこにも鮎が群れており、川に入ると、足にぶつかって驚く程だった、手掴みでとれる程だった、時々、蚕の網を持ち出し鮎を捕り、猫柳の枝にさして、ぶら下げる程だった、そのような状態に戻すのは無理にしても、昔に返して欲しいと考えるが無理か、為政者の心掛けで幾らかでも近づけることが出来るかと。</p>	<p>天神岬や木戸ダム、木戸川などは檜葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来的世代に伝えます。[第三章 2・2) (3)②]</p>

	学校の誘致など	<p>近隣の高校が閉鎖状態が続く、檜葉の状況が良くなれば、高校を誘致も一考だろう、当町には優秀な人材が潜在している、田舎町で今までは、考える余地はなかつたし、過去においてはチャンスはあっても、考える余裕がなかつた。今、絶好のチャンスを迎えており、放射能、医療、芸術、スポーツ、何でもありだ、子供たちにチャンスを与えるのだ、ゴルフ場もサッカーも再整備すれば、人は集められる、金銭的にも利用可能な資金を、政府にお願いすべきだ、ただし、紐付きは断る。常套手段だ、何かを計画すれば政府は、紐付きか、或いは、別な条件を押しつける、弱みを見せないことが大事だ。</p>	<p>双葉郡の子どもたちのため、普通課程や工学等の専門課程を備えた県立高校の誘致に向け、国や県等に働きかけます。 [第三章 3-1)(2)②]</p> <p>いただいたご意見は、今後これを具体的に検討する際に、参考とさせていただきます。</p>
	工業技術の産業について	<p>原子力廃炉関連の技術育成、現在、大地震が発生すると、関係当局が情報を発信している。過去の事情はともかく、早急に廃炉にすべきだ、もう1か所で、事故が発生すれば、日本に逃げ場所が無い、53基の原発を造ったことは、正気でない。誰も反省していない、この辺に、問題がある。</p> <p>従って、被害地として、廃炉技術の開発関連、これから更に変化する、IT関連、近い将来、テレビと電話、通信が融合してくるので、進歩的技術を育成する先端先取り事業の誘致だ、工業団地にも素晴らしい企業があると聞く、関連の会社を拡大誘致する、被災地としての優遇的対応で誘致出来るだろう、太陽電池、省力化した太陽光発電装置を進化させるものの関連産業など。</p>	<p>福島県は、福島第一・第二原子力発電所10基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。</p> <p>町では、原子力防災・除染・廃炉関係機関の誘致などを通じ、新産業の創造・誘致を推進していきます。 [第三章 4-3)(2)]</p>
	農業技術の育成	<p>今までの農業は、米が主体だった、だが、放射能の問題もあり、水の問題もある。管理可能、換金性の高い農業にすべきだ、米主体、農協主体、方向性についても考慮して変更すべきだ、政治も関与すべきと思う、何故か、JA自体に営業性が無いこと、退職した時に組合の出資を増加したが、配当どころか、そんな意志も全く感じられないからだ、冗談はさておき、今回、避難して、野菜その他を、購入、初めて他の地区の野菜を食した、特に、***地区に於いては、買ったものは****だった、自家生産の野菜の旨さ、比較は出来ない、鮮度もさる事ながら、土地によるもの、肥料によるものかは判然としないが、格差があるのは発見した、檜葉町の野菜は、もっと宣伝する必要があり、市場で味覚の競争をさせれば十分に勝てるものだ、小生自宅には、タケノコ、ワラビ、タラノメ、フキ、ウド、アシタバ、アスパラ、シオデ、があった、野菜を買うのがどんなに馬鹿ばかしかったか、残念の極みだ。</p> <p>避難をしていて一時帰宅した時に、手入れをしないのに柿が実る、バラが咲いてる不思議な光景をみた、除草して肥料と消毒をする事が手入れでなかった。目から鱗が落ちた。つまり、除草や消毒が全てでは無いのだと。</p> <p>野菜、山菜、根菜、その他のもので、出来た商品に自信があつても、残留放射能の測定が問題だろう、一品、一品、即時に計測して、その数値をプリントアウトする機械を造って貰えば良い、島津製作所に協力をお願いしてみてはどうか、安く出来ればこの機械は売れると思う。</p>	<p>農業再生の一環として、農業復興組合などを通じ、作物転換、植物工場の導入促進などを行っていきます。また、農作物の放射性物質に関する測定監視体制の整備、農業生産工程管理手法（GAP）の導入などにより、安全・安心な農作物の供給体制を立て直します。 [第三章 4-3)(3)①]</p>
	予防医療福祉総合センタープロジェクト	原案のとおり壮大な計画は、賞賛に値する、可能な限り、進行させて頂きたいが計画は大きくて、計画倒れにならないようにする事が肝要だ。	いただいたご意見は、今後これを具体的に検討する際に、参考とさせていただきます。
	当面の問題点	<p>人間の習性として、2年間の環境の変化で、生きざまが替わると言われる、心理学的に、痛さが麻痺して、現状に馴染んで来ると言う、サラリーマン時代に2年毎に1回、転勤したのはその辺に原因があるのか、仮設住宅でも、子供は育つ環境に馴染んでくる、檜葉町は記憶の中では故郷でも、反面、過去の町になりつつある、また、大人も環境に馴染んで、働く、金が入り自動車も買えるし、医療費もタダだと、労働意欲の低下、体力の低下と諦観が心に侵食して投げやりになりつつある。「心の病」と言えるかも、色々な本や雑誌の記事を読むと、避難者同情派、その反対派、意見が分かれている。我々は甘えてはいけない、反省も必要だ。少額の医療費などは、負担させるべきです。現実はある部分受け入れる。311の現状には溯れない、2年間で大事なものを失った、生き甲斐と、国家に対する信頼感を、これは、どんなに悔やんでも、回復出来まい、失ったものは大きい。</p> <p>高齢者でなくても、人間、生き甲斐がないと生きられない、失意です。</p> <p>NHKの報道によると、高齢者の大熊、浪江の介護人が36%増加したと、ともすれば、陥りがちな失意のどん底に落とさないようにと、内外から支える必要があります。帰還するには、不安要因として壊れた家の雨が漏った屋根の修理天井、ふすま、床、畳等、放射能汚染、墓地の修理、建物、家財の補償請求に対する町当局のアドバイス、信用出来る、町としての推薦出来る業者を、紹介是非お願いしたい。</p>	<p>長引く避難生活への対応として、巡回訪問、生きがい作りなどを通じて、心身の健康管理を推進していきます。 [第三章 1-1)(2)]</p> <p>住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。 [第三章 2-3)(2)①]</p> <p>また、帰町に伴う負担軽減のため、関連する各種相談・手続きなどを一元的に扱う「ワンストップ窓口」の設置に取り組みます。 [第三章 1-3)(4)]</p>

	☆ついでに、	一時帰宅した際に、現在の放射線量の中での、帰宅者が何ミリシーベルト、対、時間？ $xmcv \times \text{時間} = \text{労働可能時間}$ の早見表を作成願いたい。許容時間の算出の為にです。現在の基準での許容範囲です。 例えば $0.55mcv \times 2 \text{ 時間} = \text{許容時間} = \text{労働可能時間}$ 作業ゴミ出しとかです。	町では、放射線量・除染活動等のわかりやすい情報提供を行っていきます。[第三章 2-4(3)②] いただいたご意見は、これを具体的に検討する際の参考とさせていただきます。
	☆ついでに、	追加、スマホの使用法を伝授願いたい。	配布したタブレット端末については、4月下旬から町民を対象とした説明会を開催しています。現在は、仮設住宅及び県内での開催となっていますが、今後、県外における説明会も開催する予定です。
116	帰町の判断について	楢葉町復興計画〈第二次〉(案) 概要を読んで、私は下記の意見を述べます。  復興するためには、まず若い人達から戻らなければ、この計画自体進まないと思う。  「住民意向調査」を見ても、放射線に対する不安から、70%は現在戻れないか戻らないと言う結果が出ている。家の周りだけ除染しても山林等を除染しなければ、不安で帰町出来ない。今後の楢葉町を担っている、子供たちのことを考えて、帰町の判断を山林等を除染して放射線が、安全であると判断されるまで、伸ばすことを提案します	町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]  また、帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。
117	70代 P.3 (3) 健康のまち楢葉	町の復興を目指す計画を拝読いたしました。 放射線の線量は低下してきているようですがほんとうに大丈夫なのでしょうか。一抹の不安は残ります。 中学校の工事再開又、高校誘致など検討中とありました。 その前にお伺い致します。町に汚染されたゴミの仮置場が出来る旨新聞に載っておりましたが確定したのでしょうか。 最近、東電で頻繁に事故がおきております。 明るい楢葉を築く為にもどうか町民の安全そして健康をお守り下さい。	放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。 <ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。</li><li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li></ul> また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。
118	60代	○病院 ○お買い物ができるお店 ○交通が便利であること  いったん住宅もこわしてたてなおしをしていただければと思っています。  安心してすめる家があればと思っています。 今はなんともわかりません。 なんて書いていいかわかりません。	町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)~(2)]  また、鉄道と連携したコミュニティバスの運行などにより、町内交通の利便性向上を図ります。[第三章 2-2(1)③]  自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3)(2)④]
119	70代 中核プロジェクト紹介 (3)	中核プロジェクト紹介 (1) (2) 付いては私のおかげでいる場所は宮城県なのでテレビも福島の事故などはニュースで知る位ですので、御期待にそえる様な懸案をのべる事が出来ませんので、私の年令で解答するとすれば医療関係、施設等々で新生ならぬまちづくりの憲章の一つとし、一町民として提示致します。  最後になりましたが、タブレット端末お送りいただきまして有難うございました。これからはより広く楢葉町の動きがしる事が出来て大変感謝いたして居ります。	健康と医療の確保について、地元クリニックなどの1次医療を再構築するとともに、2次医療施設の誘致に取り組みます。[第二章 3-1)(2)①]
120	50代 全体的な意見	国、県、町は復旧、復興等以前の暮らしをイメージして計画や行動していると思いますが、地震や原子力の影響は以前住んでいた住民に様々な思いが生まれていると思います。子供を心配する人、戻りたい人、本当に様々な意見や要望が発生していると思います。放射能は健康に心配無いと言う人、考えている人、重大な健康被害を心配する人等、心の気持の分断が起こっていると思います。現在の福島第一の状況は安全、安定でないと思います。放射線の高い廃棄物の保管が決っていない現在の状況は、復旧や復興を進めるだけでなく新しい視点に立って未来を決めることも必要だと思います。具体的には線量の高い地区は除染にお金を掛ける事をあきらめ国直接管理区域に指定し高線量の保管場所に早く決定することが必要と批判を怖れ誰も言わない、何もない事なかれ的な考えに見えます。	町では、長引く避難生活への対応、帰町に向けた各種対応に加え、しばらく帰町を見合わせる町民への支援にも取り組んでいきます。[第三章 1-4)]

121	70代 復興計画の目標と理念	<p>若い世代が町に戻って又、将来の世代が町で安心して住み暮らしきれられる“町づくり”が文字通りの本当の復興計画であると思います。</p> <p>事故が安全に収束される保障が全くのこと、仮に安全に収束されるとしても数十年先のこと、1～4号の廃炉後その廃棄物の処分地など他にあるはずがないこと、東電、政府ともに残る6基の廃炉を未定としていること、(若い世代でなくても)こうした問題がある限り、安心して住み暮らせるでしょうか。</p> <p>県は「復興計画」の「基本理念」として3点をあげ、その第一に「原子力に依存しない安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」を明記しています。</p> <p>“基本理念”とは、復興の根底（土台）として、その根本の考え方を示すのであれば、〔1〕〔2〕〔3〕〔4〕の根幹には、せめて「原子力に依存しない」ぐらいの表現はすべきでないでしょうか。</p> <p>上記の問題が厳然として否定できない上に残る原発についての考え方も示さないことはいかがなものでしょうか。私も当町の“計画”的ままで後継ぎを考えることは断念せざるを得ません。</p> <p>「土地利用計画」の構想は賛成します。然し、どんなに立派な構想がその通り実現しても、原発がある限り人々は安心して住めないです。その先また今回同様の事態をくり返さないという保障ができるないことは自明なはずです。そもそも現状の原発は苛酷事故の危険性を排除できない技術なのです。政府の言う“世界一の安全基準”は、新たな安全神話です。</p> <p><b>追記</b></p> <p>求められていることに関係ありませんが。</p> <p>県内59市町村中52市町村議会が全原発の廃炉決議をし、県議会も決議し、知事も廃炉を表明しています。</p> <p>然し立地4町はそれをしていません。立地4町だけに事故責任があるわけではありませんが、立地町として、省内はもとより他県の広い範囲まで被害が及んだことに考えが及ぶなら“原発に依存しない”ぐらいの表明はすべきではないでしょうか。立地町の住民は省内はじめ全国の市町村の支援で生活しているのですが、原発の恩恵は何一つなかった上に、事故では多大な支援をしてくれました。</p>	<p>楢葉町復興計画の基本理念の中では、「3. 次世代への継承」の中で「楢葉のあり方をもう一度見直し、原子力だけに頼らない、新たなまちづくりに取り組む。」としています。[第一章2-2]</p> <p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策を町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章5-1]</p> <p>また、福島県は、福島第一・第二原子力発電所10基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。</p>
122	60代 復興計画案	<p>案を読みましたが、除染について、ですが行なっている人の実動時間が少な過ぎます。休み時間が多すぎる、1日4時間です。</p> <p>これではまちづくりは、あの世でやるしか?</p> <p>仮設にいる町民を除染に参加させては?</p> <p>他の人を使うより自分で除染させては?</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、国に頼るだけではなく町独自の除染として、除染ボランティアを積極的に募った上できめ細やかな除染に継続的に取り組みます。[第三章2-1)(3)]</p>
	放射線対策	<p>私は今、セシウム137を415被ばくしています。被災生活を送るのにストレスばかりです。乗り切れるでしょうか?</p> <p>毎日のように楢葉の家に行っています。</p>	<p>町では、今後とも、放射線量・除染活動等のわかりやすい情報提供を行っていきます。[第三章2-4)(3)②]</p>
	健康のまちづくり 町のスポーツ	<p>スポーツクラブは、毎日のように活動していますが町からの予算はありません。体協は活動はあまりないようですが予算はあります。</p> <p>復興計画案も机の上でつくっているのでないですか。山田浜あたりで考えてみては?</p>	<p>いただいたご意見を真摯に受け止めつつ、今後、復興推進委員会における復興計画の見直し・進捗管理を進めていきます。</p>
	除染について	<p>○山所布地区の除染ですが環境省との打合せでは、山から里へやりますとのことでしたが下から上へ除染しているようですが?</p> <p>いくら、松館地区を除染しても雨が降れば?</p> <p>○25年度も前田JVとのことですがこれでは?</p> <p>除染スピードもやり方も変わりません。</p> <p>町職員も除染の実体を見て下さい。</p> <p>広野町とやり方が違いますよ。</p> <p>国が除染しているから大丈夫だと思っていませんか?民間にやらせましょう。金を払ったから除染は終ると思っていますね。</p> <p>とにかく現場を見て下さい。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としてその作業状況を監視していきます。[第三章2-1)(1)②]</p>

123	60代	<p>地震で瓦が壊れ半壊以上です。家の中も天井も穴があき小動物が出入りしています。臭いもします。壁も崩れ雨漏りもしています。線量が少し高いので、除染が終わったらその後線量の結果住むかどうか考え、屋根を直さなければいけません。若夫婦は乳児もいるので帰還を断念せざるを得ない状態です。新築は無理です。</p> <p>楢葉町長さんが中間貯蔵を保管庫としている。もしそこに決定したならば何m、何kmが立ち入り禁止になるのか知りたい。それによって自宅の修理も考えています。除染後屋敷の廻りの杉の葉とか草木はどんな処分をすれば良いのか..。(震災前はお風呂の薪にしていました)</p> <p>第1に東電の安全性、 鉄道・交通の便 農業は個人個人でなく集団で取り組んで進めてほしい モニタリングポスト設置も希望</p>	<p>住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3] (2)①]</p> <p>また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3] (2)④]</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。</li> <li>・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。</li> </ul> <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p> <p>今後、鉄道と道路の連携した交通の確保[第三章 2-2(1)③]、農業復興組合による農業の再生 [第三章 4-3](2)①]など、復興計画に記載した施策を推進していきます。</p>	
124	40代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興計画は、おおむね良いと思いますが、住民の帰町はもう少し後でも良いはずである。H28年より後にしてほしい。線量が少しでも下がるはずであるから。</li> <li>・除染は国の基準より厳しくしてほしい。 例：毎時 0.2 マイクロシーベルト以下</li> <li>・行政が中心になって、東電に対し損害賠償を取ってほしい。</li> <li>・被爆者手帳を発行してほしい。</li> </ul>	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目指して、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む[第三章 1-4](3)②]ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章 2-3](2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章 1-3](1)④]</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p> <p>町では、「健康管理システム」の導入により、健康診断等に加え、内部被ばく健診など各種データを一括して蓄積・管理していきます。[第三章 2-5](1)③]</p>	
125	50代	<p>今、現在の原発の状況は終息には程遠い状況の中、現状にて、双葉郡での生活の再会は、まだ考えられない状況です。その中での、戻る中だけでの復興計画は、まだ私としては思い悩むことです。我が家には、若い世代と、高齢の年寄りがおり、どちらも、今の現状で戻ることを決めかねています。一般廃棄物の処理施設も、2年たった今までさえ、稼働ができていない状況、川内、広野の住民の帰村の今の現状で、まだ自分としては、答えができません。ただ言えることは、一つの町での考え方必要かと思いますが、双葉郡全体でこれから姿も合わせた上で、双葉郡一つとして考えて動かないと、これからの復興は、立ちいかないのでしょうか。</p>	<p>復興の推進に向けて、双葉郡内の各町村と連携をとり、県、国も参画する「双葉郡復興会議」の設置を呼びかけ、これを推進していきます。[第二章 3-1](3)]</p>	
126	60代	<p>復興計画を拝見いたしましたけど、本当に実現すれば、すばらしい事ですが...</p> <p>実際には何%位になるのでしょうか？</p> <p>戻りたい気持ちはありますが、若い人たちは戻らないとの事なので、戻っても自分だけでは1人暮らしになる訳ですから、先の事をかんがえると不安ばかりです。</p> <p>年老いた人ばかりになってしまふ可能性もあるかと思います。戻りたいけど戻れないと思っている人が多いかと思いますが、集合住宅の様な所があれば、又、気持ちは違うかと？</p> <p>住める家はありますが、1人暮らしでは、今は戻る気持ちにはまだなれません。(戻りたい気持ちは、とてもあります)</p>	<p>避難先で取り組んだサポートセンターにおける支援事業を帰町後にも取り組み、帰町時の高齢者孤立防止のコミュニティ再生を支援します。[第三章 1-2 (2)③]</p>	
127	50代	新たな街並みの形成	1. 「商業ゾーン」的なものを明記してはどうか	新たな街並み整備の一環として、新商業ゾーンづくりを推進していきます。[第三章 3-3](1)]

		<p>2. 新しい駅「新檜葉駅」「天神駅」(仮称) の整備をする</p> <p>3. 商業については、広域的な取組を考えてはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣町の商業者との連携</li> <li>・大型商業施設の誘致</li> </ul> <p>4. エコモデルタウンにしてはどうか</p>	<p>竜田駅は新たな街並み形成ゾーンの近傍に位置していることから、これらを一体的に捉えて開発を進めていきます。一方、木戸駅については、多機能拠点整備を行うJヴィレッジとの連携を念頭にした計画づくりを行います。このように2つの駅にそれぞれの役割を持たせることで、町全体としての交通の便を確保していきます。</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導します。[第三章 3-3)(1)~(2)]</p> <p>いただいたご意見は、今後、具体的に検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>中核プロジェクトとして検討している「スマートコミュニティとコンパクトなまちづくり」は、再生可能エネルギーの活用や省エネなどを通じて、効率的・効果的かつ安全・安心なエネルギーを確保することを目指します。[第二章 3-1)(2)③]</p>
	避難ルートとなる道路網の確保	<p>1 東西へのアクセス道路「竜田停車場・下川内線」の整備 ※山所布一具の坂</p> <p>※双葉郡内町村との連携●広域的見地による計画、取り組みが大切と考えられますので、関連する項に「広域的による」などの文言を入れてはどうか。 例「小・中・高・大学一貫教育、大学の誘致」</p>	<p>「災害に強いまちづくり」の一環として、広域的避難ルートの確保のため、ハシゴ状の道路整備を基本とした道路の多重化を進めています。[第三章 5-2) (1)] ご指摘の道路整備についても、その一環として今後検討します。</p> <p>復興の推進に向けて、双葉郡内の各町村と連携をとり、県、国も参画する「双葉郡復興会議」の設置を呼びかけ、これを推進していきます。[第二章 3-1)(3)]</p> <p>高校など高等教育機関の誘致に関しては、広域的連携により取り組みます。[第三章 3-1)(2)②]</p>
128	楓葉町復興計画の概要から	<p>楓葉町復興計画〈第二次〉(案)概要を読んで、わたしは、下記の意見を述べます。</p> <p>復興する為には、まず若い人達が戻らなければ、この計画自体が進まないと思う。</p> <p>「住民意向調査」を見ても、放射線等に対する不安から、70%は現在は戻れないか戻らないと言う結果が出ている。家の回りだけ除染しても、山林等を除染しなければ、不安で帰町できない。</p> <p>今後の楓葉町を担っている、子供たちのことを考えて、帰町の判断を山林等除染して放射線が、安全であると判断されるまで、延ばすことを提案します。</p>	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目途に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
129	60代	<p>①JRの復興</p> <p>②病院の開設</p> <p>③スーパー復興(食品)</p> <p>④若い人達の雇用</p> <p>⑤原発は必ず廃炉(第一原発、第二原発)</p>	<p>国及びJR東日本に対し、町民の帰町時期を見据えた計画的な常磐線の復旧について、楓葉町までの延伸を含め要請します。[第三章 2-2) (1)②]</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)~(2)]</p> <p>雇用について、安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。[第三章 2-6)]</p> <p>特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致をはじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。</p> <p>福島県は、福島第一・第二原子力発電所 10 基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 榎葉町全域の完全なる除染が絶対条件</li>   <li>● 公共料金は値上げしては駄目だ</li> <li>● 町は町民の意見を聞いて帰還宣言を必ず実施する事</li> <li>● 町が震災前に戻るまでは町民に支援をする事</li> <li>● 若い方々が必ず帰ってくる様に国、県、町は努力をする事</li> <li>以上の事をどれ一つ掛けても駄目だ！！</li> </ul>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1](1)~(2)]</p> <p>さらに、国に頼るだけではなく町独自の除染として、除染ボランティアを積極的に募った上できめ細やかな除染に継続的に取り組みます。[第三章 2-1](3)]</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p> <p>また、いただいたご意見を真摯に受け止め、今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
130	20代	中間貯蔵施設について	<p>作ることはしかたないが波倉に作るならしっかりとその周辺の土地、家の買い上げ等、具体的な誠意ある町の対応をしてほしい。でないと今後生活していくません。</p>